

ひとひと  
女と男の参画講座

## 家族のために うごく ふみだす

第1回 平成24年12月9日(日)「ドリームボードで自分を知る！」(仮題)

第2回 平成24年12月16日(日)「介護で 家庭を壊さないために」( // )

講師:笠原ノリ子さん(心理カウンセラー)

第3回 平成25年1月13日(日)「家族が倒れたとき 何をする？」( // )

第4回 平成25年1月27日(日)「風通しのいい家族にいるには？」( // )

講師:森山千賀子さん(白梅学園大学准教授) 協力:小平市地域包括支援センター

いずれも、午後2時から午後4時まで 中央公民館・講座室2で開催します。

※参加申込の方法、保育など詳細は、市報あるいはチラシでご確認ください。

ひら  
掲示

ひとひと  
第16回 女と男のフォーラムの報告  
「講談 フラガール物語ー常磐炭礦余聞ー」

神田 香織さん(講談師)

小平市男女共同参画推進実行委員会が企画、実施する「第16回女と男のフォーラム」は、6月23日午後2時からルネこだいら中ホールで行われました。全国的に推進のための催しが行われている「男女共同参画週間」の中、220名ほどの市民が参加されました。

神田香織さんが語る講談「フラガール物語」は、時に早口で、時にはしんみりと、張扇の音を交えて、会場の笑いと涙を誘います。神田さんのどこから出てくるのか?と思う、朗々たる講談の語り。この語りで会場は一気に「神田香織の世界」に引き込まれました。同タイトルの映画を観た人は映画のシーンを思い出し、観ていない人はその昔の情景を頭に描き、福島県人は故郷いわきに戻ったような気分になったのです。講談が終わり舞台が真っ暗となったとき、会場は余韻に浸る静寂が広がり、立ち上がる人はいませんでした。



## 表紙作品「自由な集団」

協力:こだいら菜の花プロジェクトの「ひまわり」

ひまわりはうごく。太陽を追いかけて重そうな頭を動かす。ひとつひとつが動いて、でもみんなで同じ太陽を追いかけている。個々の意志と、同じ方向性を、ひまわりの群生に感じる。

ひらくのテーマが「うごく ふみだす」に決まったとき、動かせない、一つずつ違っていても、何となく同じ方を見ている、そんな自由な集団を感じさせる物を表紙にしたいと思った。立場もやり方もそれぞれ違うけど、目的は同じという、最近の新しいタイプの市民運動が、頭をよぎったせいかもしれない。

小平で農地保全と環境活動をしているこだいら菜の花プロジェクトの「ひまわり」を、いつも表紙の写真を撮ってくれている、長塚さんに撮ってもらった。

これ以上青くすることが出来ないような、青い夏空の下で、ファインダーの中のひまわりは、自由に同じ太陽を追いかけていた。

PHOTOGRAPHER 長塚秀人



## 防災安全課に 女性職員

小平市役所の防災安全課に、初めて女性職員が配属された。これで初めて小平市の防災に女性の視点が入るのかな?と期待を込めて話を聞きに行く。

防災というイメージとはほど遠い、優しい山本さん。「今はまだ珍しいかもしれませんが、今後、防災安全課に女性がいることが当たり前になるよう努力します」と、控えめだが頼もしい。

防災安全課の職員は10人。男女比がせめて7:3くらいになれば、女性も行きやすい防災課になるのかな?

防災安全課の  
山本真由美 主査



# ひらく広場

## 原稿をお寄せください

ひらくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には〒、住所、氏名(ふりがな)がな。原稿掲載は匿名・イニシャル可。年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先/小平市小川町二丁目1333番地  
小平市次世代育成部青少年男女平等課  
「ひらく広場」係 FAX 042-346-9200

byodo@city.kodaira.lg.jp

ひらく編集室はあなたにひらいています。



## いつまでも ワクワクドキドキ

突然仕事を失った私たち3人、とどきどき会っては近況報告をした。それぞれそれなりに、あれこれがんばって暮らしているのだけれど、今一つ物足りなさも感じていた。

そんなとき、知り合いから「HPホームページを作る？」と聞かれたのをきっかけに、3人で協力しながらいくつか試してみた。

私たちの年代(?)は、第二の人生をスタートするにはよい時期だと思ふ。一念発起して起業した人もチラホラいて、日々忙しくも充実した毎日を送っているようだ。とはいえ、突然介護が加わったり、進化する情報機器を使いこなすまでの余裕がなかったり。

そこで、ひとり奮闘している個人事業主のWebサイト作りを通して応援したいと思った。そうすることで、私たちが社会とつながっていく。HPの存在で、個人と個人がつながりやすくなり、そこからまた新しいものが生まれると楽しいかも。

(三人姦女)



## 「子どもから大人まで、 原発と放射能を考える」 副読本

原発に反対しながら研究をつづける  
小出裕章さんのおはなし

小出裕章監修 野村保子著  
クレヨンハウス 1,2000円+税



(この本を読んで)  
今まで何度かニュースなどで聞いてきた原子力発電は、私の思っていたよりも恐ろしいものでした。特に

私は、広島や長崎に原爆が落とされ多くの方が亡くなったのにも関わらず日本には、54基もの原子力発電所があることに驚きました。

なぜ、こんなにも多くの原子力発電所が日本にあるのか不思議です。原子力発電に使われるウランなどは、安全では無いことがわかっていたはずなのになぜそれ使って発電をしようとしたのか。また、被爆の恐ろしさも知っていたはずですが。これでは、広島原爆ドームの残されている意味があるのでしょいか。

私は中学生の頃、社会で「日本は核兵器を持たず作らず持ち込ませず」と、習いましたが、原子力発電所は核兵器とはあまり変わらないと思います。

以上のことをふまえて私は、原子力発電所をなくすべきだと思います。(春風)

## 東京の森林

春先は必ず花粉症の方に出会います。ほとんど平気な私は、逆に肩身が狭いような気がしてくるほど大勢の人たちが花粉症に罹かかっています。そこで、東京都は花粉症対策の一環で杉を切り始めました。戦後国の政策で植林され、直径20〜30cmに育った杉です。広葉樹は残して杉を

切り、その後に花粉があまり出ない種類の杉を植えていました。東京都の森林面積は予想よりはるかに広く36%もあるそうです。

遠くから見た山は禿山に見えました。近づくとも30cmほどの苗が育っています。今度こそ多様な意見を取り入れて、利用するところまでを考えた計画になっているといいな、と思しながら山を下りました。

(山に登ったぺんぎん)



右端の棒のところは30cmの杉の苗が育っています。どんなに長生きしても私は、この苗が山のてっぺんの木のようになるのを見ることができません。(あきる野市)

## 何かをはじめると、 遅すぎるよとみんなはならん

旧友からバースデーカードが届いた。毎年誕生日当日にメールではなく郵送で届く。

お祝いと旧交への感謝の言葉が綴られた後、「私は私らしさを取り戻し、これからの人生を私自身のものとして生きていくことにしました」の一文。差出人欄には新住所。急い

小平在住、在勤の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

## いきいき レディ29

### 生かされている だから 前向きに生きる

加藤幾代さん

学園西町在住 大学事務補佐員



「今の目的は体力づくり。右手だけのクロールで泳ぎます。」という加藤さん。

病気の後遺症がある加藤さんは、リハビリを続け器具なしでも杖を使って歩けるようになりました。そして50代で再就職をしました。来年3月に退職する加藤さんに前向きに生きる理由を尋ねました。

### ◆合唱団活動が前向きのもと

学校以外のことです。学校以外のことでも何かをしたいと思うようになったのは、加藤さんが小学6年生の時でした。団員募集のポスターを見て東京荒川少年少女合唱団に入団。国内外の公演活動に参加し、責任者役もこなしました。そこで出会った指導者の影響を強く受けたと加藤さんは言います。その先生はインド哲学を専攻し、独学で音楽を学んだ方でした。「人は生きている

んじゃない。生かされているんだよ」という言葉を今も思い出すそうです。

### ◆仕事がしたい

加藤さんは大学卒業後、総務付きの社長秘書として就職をしました。ところが、真面目に働かない重役たちに嫌気がさして、短期間で会社を辞めてしまいました。「働くということとはこういうことではない」と思ったそうです。結婚後、小平に住んでからは家事と子育ての毎日でした。病気になってリハビリをするうちに、加藤さんは中途半端で辞めてしまった「仕事」をしたと思うようになりました。夫の助言で職業訓練校に通い、パソコンなどを勉強しました。海外留学から帰った娘の「外国ではみんなが働いていたよ」という一言に押され、加藤さんはハローワークへ行って仕事を見つけたのです。

### ◆これから

加藤さんの仕事は3年、2年、1年と更新され、来年の3月で退職となります。職場の環境もよく加藤さんは充実した気持ちで働いてきました。退職後は、読み聞かせのボランティアをしたいというお話でした。

で連絡すると、子どもを連れて家を出たとのこと。幸せになるための選択、一大決心だと。不安は尽きませんが、私の人生は私のものだから、と。家庭や夫婦のことを、他人が窺い知ることができない。正直「どうして？」という衝撃と戸惑いの混じった複雑な感情に襲われた。人生半ば過ぎての決断に、彼女の勇敢さと、果断に至るまで抱えてきたものの大きさを思う。

何かをはじめると、遅すぎるということはない。幸せの形は人それぞれだし、社会通念上の幸せも家族形態もない。見せかけの幸せのために、自分を殺して生きることほど、不幸せなことはないだろう。私は伝えた。「大丈夫、あなたはあなたらしさを失っていないよ」大変な状況にありながら、カードをいつも通り送ってくれた、それが何より彼女らしい。(青い鳥)

### 城下町秋月を訪ねて

6月末に福岡県の城下町秋月を訪ねた。筑前の小京都と言われる秋月は、今年の2月に他界した父が戦時中疎開していた町だ。書店で求めた地図を片手に、在来線で基山に行き、甘木鉄道に乗り換えて甘木からタクシーで秋月郷土館に到着した。



資料によると秋月町は1203年に築城した山城跡。のち1624年福岡藩黒田家の分家、50万石の城下町として栄えた。この町で作られたのが黒田節。

帰りのタクシーで運転手からどうしてこの町に来たの？と聞かれたので、亡き父が昭和20年に大刀洗飛行場で働いていたが大空襲を逃れて秋月に疎開したことを話した。

たくさんの人が亡くなりました。東洋一の飛行場だったこの地から特攻隊の若者が知覧へ行ったのです。こころで親兄弟と別れをしたんです。

軍の秘密を守るため知覧への見送りは許されなかったのだという。大刀洗平和記念館があると聞いたので、いつかまた訪ねたいと思う。旅から戻って九州北部が大洪水、というニュース。親切に道を教えてくれた駅員や歴史を語ってくれた方々の無事を心から祈っている。

(60代 風来坊)



# 『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

## 『驚きの介護民俗学』

六車由美・著  
〈医学書院〉  
2,100円＋税



「へー、どこかの民族が思いもよらない変わった介護をしてるんだー」とは、とんだ勘違いで、実は介護の間に交される利用者と介護者の会話の中に、驚きの発見があった。それに気づいた筆者は、自分がめざす民俗学にとっても、老人達が話す思い出話にも、何年にも渡るフィールドワークに勝るとも劣らない、宝物を発掘する。

老人達の独り言の中から、言葉のしつぽを掴んで引きよせる。彼らが過ごした生活が徐々に形になっていく過程は、正に驚きであり、利用者と介護者の対等な位置関係が感動的だ。  
人間の尊厳を問う重要な仕事にそぐわない、劣悪な労働条件ゆえ、心優しい若者達が現場を離れていく現実の中で、『介護』との新しい関わり方としての新鮮な視点がそこにある。

## 『ママレボ(Moms' Revolution)』OCULIP

〈ママレボ編集チーム〉  
3000円＋送料



「福島の『いま』を伝えたい」と、有志3人ではじめた『ママレボ』。小さなメディアながら全国から大きな関心が寄せられている。創刊から3冊目にあたる002号では、フェルネクス博士緊急来日で見えてきた

「福島の実実」と土壌汚染の実態を2大特集として取り上げ、さらに、福島女子による任意団体 peach heart の紹介や放射能に負けないレシピなども掲載。  
心配だけどうしたらいいのか…、私にも何かできることはあるのか…と悩むママ達のための情報誌。

## 『問い合せ先』

Email: info.momsrevo@gmail.com

## 『メディアをつくる 「小さな声」を伝えるために』

白石草・著  
〈岩波書店〉  
5000円＋税  
岩波ブックレット NO.826



“パブリックアクセス”という言葉を知っていますか？日本ではテレビ局が放送する番組を視聴するのが一般的だが、欧米や韓国では市民が番組を制作・配信する“パブリックアクセス”が根付いている。本書では、筆者の経歴を辿りつつ、貧困や原発、民族や性的マイノリティーなど、少数派の意見が報道されることが少ない日本において、“パブリックアクセス”が今後の重要なキーワードになると提言する。

白石草（しらいしはじめ）さんは、特定非営利活動法人 OurPlanet-TVを設立し、10年にわたりマスメディアとは異なる視点で情報を発信し続けたことにより、『放送ウーマン賞2011』を受賞。

## 『もうふのなかのダニイたち』

ベアトリーチェ・アレマーニャ  
石津ちひろ・翻訳  
〈ファイドン株式会社〉  
980円＋税



にこにこしながらこちらに手を振っている生きものたちがダニイです。カラフルでふわふわのかわいいうさぎが、あのダニイだとはかなりの意外性。それでも毛布のなかの織目におうちを構えてまるまっていますから、ダニイなんです。

表紙のダニイがこれほど晴れやかなのに訳があります。互いのみかけの違いにこだわって不愉快だった気分をはねのけられたからです。  
フェルトの手作りダニイが目を楽ししい一冊。本当のダニイは足が8本ですが、まあいいでしょう。

## 『おじさん図鑑』

なかむらみ・絵・文  
〈小学館〉  
1,000円＋税



多種多様なおじさんが植物図鑑のように載っています。「こんなおじさん、いるいる」と言いながら見るのも楽しく、おじさん達の生き方が伝わる読み物としてもおもしろい本です。不満は、現役世代が少ないこと。著者は30代女性です。短く言うと、男女共同参画社会が近づいたからこの本が売れたという書評を読みました。目に見える形でその社会が近づいて来るのならとてもうれしいのですが…。

行って  
みました



こどもみらい測定所

memoli  
measuring and mothering for life

国分寺のカフェスローの隣に市民測定所があると聞き興味津々。カフェスローといえば暗闇カフェやゆっくり市などのイベント、マタニティや育児のワークショップなども開催している人気のスポット。さっそく出かけて、代表の石丸さんにお話をうかがってきました！

オープンしたのは昨年(2019年)の12月15日。「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」との関わりから、市民測定所の必要性を実感し、縁あって理想的ともいえるこの場所に開所することができたとのこと。営業は水曜から土曜日の週4日で、測定は1時間を1枠として1日7回。一度に2検体の測定が可能で、オフィシャルサイトの予約システムで簡単に予約やキャンセルもできます。



測定器は2台。ベラルーシの会社ATOMTEX社の「AT1320A」を使用



測定だけでなく、勉強会の開催やイベントへの出演もこなす、代表の石丸偉丈さん(右)と副代表の前田幸宏さん(左)

「こどもみらい測定所」で使用するのはヨウ化ナトリウムシンチレーションスペクトロメータというもので、

ゲルマニウム半導体検出器よりは簡易な測定ですが、短時間での測定が可能で維持費も安いのが特長です。実際に依頼として多いのは、子どもが育つ環境(学校や公園)を心配する土壌検査や、家庭菜園や郷里から送られた野菜や果物、米などが安心して食べられるのか確認に訪れるケース。一度に4検体を持ち込む方もいるそうです。

この日も妊婦さんや子どもを連れたママ達が信頼できる情報が知りたいと訪れ、測定の合間に丁寧に説明する石丸さんの姿が印象的でした。最近は様々な情報が流布し混乱しがちだが、「気にした方がいいもの、しなくていいもの。(数値が高く)出やすいもの、出にくいものを認識して、情報のメリハリを！」と石丸さんからアドバイスも。不安から食べる楽しみまで失うことがないように、気になったら気軽に測定してみませんか？



「放射能が…」 「放射線量が…」という言葉がふつうに使われる場が近くにあるのは心強いし、うれしい。



memoliにはアーティストが製作する雑貨や育児用品、竹布のくつ下やストールなど、ココロとカラダに優しいグッズがいっぱい！

### こどもみらい測定所

- ◆ 場 所：国分寺市東元町2-20-10 memoli内
- ◆ 電 話：042-312-4414 (TEL & FAX)
- ◆ 営 業：水～土曜日 11：30～18：30
- ◆ 料 金：1 検体 3,000円  
同日に限り、2 検体 5,500円、4 検体 1万円
- ◆ <http://kodomira.com/>

### ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(18館) 福祉会館、総合体育館、児童館、健康センター、市役所 1F・2F、東部・西部出張所、郵便局(17か所) 市内各駅(7か所)、八坂駅、萩山駅、東大和市駅

- 小川町 多加楽、手作りクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし
- 小川西町 佐野商店
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ、長江堂、フレッドファクトリー 510、カフェ Air
- 上水本町 アトリエ・パンセ
- 津田町 ハタエコンサーン
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、百の豆木、梁里館、美容室ヘアアーグラシユ、鈴木小児科、本間歯科  
ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おたまき工房、カシユカシユ、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 J
- 美園町 多摩済生病院、ラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、きらら事務所と広場
- 御幸町 ケアタウン小平
- 鈴木町 和菓子の玉川屋
- 回田町 ヴェルデ
- 大沼町 がすミュージアム
- 花小金井 上原薬局、風のシンフォニー、辰砂、公立昭和病院

### 編集後記

● 10年間失意のうちに引きこもっていた方が、ひらく広場の投稿記事がきっかけで再起された。という話を聞いた。「ひらく」が少しでもお役に立ったのなら、こんなうれしい瞬間はない。(S)

● 皆様のお陰で31号を発行することができました。これからも少しでもお役に立てるよう、新しいことに挑戦していきたいらと思っています。(M)

● 少しづつに「ひらく」2号を開いて「いきいきレディ」のページを見ると、近くの喫茶店で待ち合わせ取材した時を思い出した。知らない方と会って話す楽しさを経験した初めの一歩でした。(A)

創刊号 H9.1



市長と語る90分  
あなたの暮らしを  
ジェンダー・チェック

# 『ひらく』のあゆみ

## こんな風に「ひらく」を作っていました

市長との対談、ジェンダー・チェックなど創刊号らしいページがあります。表紙は印刷会社から裸婦像が提案されました。市からの意見はありませんでしたが、実行委員会の話し合いでクラフト調になりました。

編集会議は市役所内で行われていました。年1回の発行だったので、編集会議にはかなりの時間をかけました。ひとつのことでもとことん話し合いました。お手本がない広報誌。1回の会議で決まらないこともしばしばでした。

2号 H10.1



夫婦のパートナーシップ  
パートナーとのいい関係

★バックナンバーは、男女共同参画センター“ひらく”（小平元気村おがわ東2階）にあります。次世代育成部 青少年男女平等課にお問合わせください。

## こだいらDV防止ネットワーク（通称Pネット）

男女共同参画センター“ひらく”の登録団体の中からその活動内容を取材して伝えます。



Pネットは月1日定例会を開いています。  
お問合せは二イムラへ。(090-9140-8042)

こだいらDV防止ネットワークは団体名のとおり、ドメスティックバイオレンスを防止するための活動をしている団体です。6月16日(土)午後2時から4時までココロレシピを制作した武蔵野美術大学の学生さんたちとワークショップをするというので参画センターを

訪ねました。

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の4年生の学生さんたちが3年生の時に作ったDV防止プロジェクトの名前がココロレシピです。相手の気持ちを知るゲームのようなもの。DVとは何か、こうあらねばならぬ、という堅苦しいものではなく、「相性診断をしませんか?」と言ってカップルを誘い、参加して相手の気持ちに気づき話し合いをするきっかけづくりとなるものです。レシピというからは相性診断の結果は、激辛からマイルドまでカレーの味で表現されています。

カップルは、相手にこうしてほしいと思っていることをカードの中から選び、そのカードを野菜の

名前の四角い箱に貼ります。野菜の箱は軽いものから重たいものまであり、気持ちを込める度合いを重さで表わします。

カップルはそれぞれの箱をカゴに入れて天秤にかけます。傾きが大きいカップルは話し合いの必要があります。話し合っるところを見つめます。そうすると天秤の釣合いがとれます。

学生さんたちは、「若い人たちの間に、DVなのにそれと知らずに広まっていることが問題です。今までDVのことは一方的な伝え方だったので、当事者にしっかりと考えてもらいたいとココロレシピというワークショップの形にした」と、説明しました。出席者は、男女共同参画推進は気づくところから始まるということを再認識しました。(T)



学生さんたちは授業の一環として写真のようなグッズを制作し、齋藤啓子教授と一緒に内閣府の男女共同参画局へ届けました。

# ひらく

第31号  
平成24年10月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課  
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 笹尾かをる  
佐野 里美 坂岸 真子 谷原 裕子  
寺本 陽子

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。